

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイパーチェ		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月17日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた適切な支援	発達段階に合わせた支援内容を考えている。地域の人との交流を行い、地域とのつながりを感じられるイベントや活動を多く企画し実行している。雨の日以外は外遊びを必ず行い、心身ともに開放感を味わい体を動かし、健康的に過ごせる様になっている。「移動駄菓子屋」さんを取り入れ、買い物を楽しみながら、金銭感覚を知る催しを行っている。	社会性が築けるよう外出活動(外出・外食支援)を多く取り入れ、集団でお約束を守りながら動けるように取り組んでいる。地域の児童館・図書館・NPO団体・消防署・警察署の方と連携し、目的に沿ったイベントを展開している。保護者が普段の子供の姿が見られる機会を作り、保護者参加型の催しを実施している。
2	多岐に渡る活動プログラムの実施	限られた活動スペースを補うために、地域の体育館や様々な公園への外出を行い、体を動かせる機会を作っている。活動プログラムや、発達に合わせてグループ分けし住み分けしながら、活動を行っている。電車体験や、プラネタリウム体験(事業所でのクールダウンの際のプラネタリウムタイム)等を行い、静と動を意識して切り替えと集中力が保てるようにしている。	事業所の中に、プラネタリウムを設置してマインドフルネスタイムを取り入れている。大きな黒板を設置して、文字の習得、書くことへの興味を引き出ししている。黒板を使ったゲームや文字遊び、パネルシアター等、用途は多岐に渡り充実した活動に繋がっている。
3	地域との交流の機会を提供	地域の体育館や児童館等への外出機会を多く設け、事業所外の大人や子どもとコミュニケーションを取れるよう社会性を意識している。	事業所が商店街の並びにあるので、季節に応じ「年始の挨拶巡り」「ハロウィンパレード」「外食支援活動」等、お店の方との交流を実施している。図書館の方と企画し「子ども映画まつり」を実施している。普段、映画館に行くことが難しい子ども達の保護者から好評を得ている。児童館に出かけ交流し、イベントにも参加している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの狭さ 不安になった児童を落ち着かせるための別部屋がない。	事業所の作り上、活動スペースは横長のワンフロアに限られている。 職員室もおもちゃや資料置き場となっているため、手狭にはなっている。	備品の収納場所を確保し、スペースを広げる。 玄関前スペースを整理し、活動場所に利用する。 公園や体育館等への外出で広い場所での活動機会を作る。 職員室のおもちゃスペースを見直したり、更衣室をクールダウンのために活用する。
2	防災マニュアルや感染症対策マニュアルの周知が徹底されていない。	避難訓練は、年に数回実施し「サービス記録への記入」や「事業所通信」「送迎後の申し送り」での紙ベースでのお知らせは実施しているが、まだ行き渡る程の周知ではないようである	行っている周知方法以外の方法で、保護者に向けて「防災訓練・感染症訓練実施」のお知らせを実施していく。例：LINE
3	保護者会や兄弟向けイベント等の開催がない、周知が不十分。	イベントを企画していても元々が土曜日の利用児童のみに伝達することが多くなってしまっている。	引き続き、土曜日を利用して保護者間交流の機会や兄弟で参加できるイベント等を企画し、電話や連絡帳、通信等で事前に幅広い周知を行っていく。仕事をしている保護者や、レスパイト目的の保護者も多く、参加の促しは強制的ではないので、「事業所通信」や「送迎時での保護者への申し送り」を継続していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイバーチェ			公表日		2025年3月30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	3	限られた居室内での活動を補うために近隣の公園、図書館、体育施設を積極的に利用している。	不安定な時に落ち着ける部屋があっほしい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	遊具保管室にある遊具の写真をこどもが見える場所に貼り出し、こどもが要求しやすくしている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0		クリーンアップ		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	確認事項のスペースに掲示してあり共有できている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ 合わせて支援を行っているか。	6	0	自立支援と日常生活の為の活動、創作活動や 地域交流の機会の提供、余暇の提供。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定 をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0		
関係機関 や保護者との 連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、 教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時 刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡） を適切に行っているか。	6	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支 援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所 等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等して いるか。	4	1		事例がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスー パーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動す る機会があるか。	5	0	近くに公園や児童館があり、地域交流ができて いる。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や 課題について共通理解を持っているか。	6	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログ ラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機 会や情報提供等を行っているか。	2	4		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	6	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意 思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こど もや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行 い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必 要な助言と支援を行っているか。	6	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0			